

標 題 : Food Consumption and Cancer of the Colon and Rectum
in North-Eastern Italy
イタリア北東部における食品摂取および結腸と直腸の癌

著 者 : E. Bidoli, et al. (イタリア アピアノ癌センター、 ベルギー、スイス)

掲 載 誌 : Int. J. Cancer 50: 223-229 (1992)

要 旨 : 食事要因と結直腸癌リスクとの関連をイタリア北東部のポルデノーネ地方における結腸癌 123、直腸癌 125 症例、および急性の癌でない消化器疾患で入院した対照 699 人による症例 - 対照研究で研究した。

一致した正の関連がパン(オッズ比 OR=2.1 結腸、2.2 直腸、3 区分で最高 対最低)、ポレンタ(コーン料理、OR=2.1 結腸、1.9 直腸)、チーズ(OR=1.7 結腸、1.8 直腸)、卵(OR=2.5 結腸、1.9 直腸)の高い摂取頻度で認められたが、トマトの摂取頻度が高い被験者ではオッズ比が低下した(OR=0.5 結腸、0.4 直腸)。

マーガリンの高い摂取量は結腸癌に有意な予防を発揮し、そしてニンジン、ハウレンソウ、全粒パン、パスタが直腸癌リスクに対して都合よく影響するが、赤身肉は直腸癌リスクに対して不利に影響した。

上にのべたように本研究は、高繊維つまり野菜が多い食事と関連する予防作用の裏付けを提示するけれども、精製澱粉食品、卵および高脂肪食品(チーズと赤身肉)は結直腸癌の危険因子と示される。
